

海禅寺新聞 第12号

NHK大河ドラマ『真田丸』で盛り上がり
 に盛り上がった今年の信州上田。そんな
 一年も早いもので年の瀬を迎えようとし
 ております。これまでの海禅寺新聞でも
 度々触れましたが、皆さまの菩提寺、海禅
 寺は、真田昌幸公が天正十一年に上田城を
 築城の折、城の鬼門除けのために現東御市
 より移転建立された寺です。こうした真田
 家ゆかり歴史を持つ当山ゆえに、この一年
 は県の内外から、個人で、又は団体で参拝
 に訪れる方が多くおられた年になりました。
 その中で、ご朱印をお求めの方の総数
 を数えてみたところ、三百件近い数のご朱
 印をお書きしていることがわかりました。
 ご来山の方々全員がご朱印をご希望する
 わけではありませんので、今年一年の参拝
 者は、二百人を優に越える大勢の方々を訪
 れられたということに、今更ながら驚いて
 います。



『真田丸』はここ数年
 の大河ドラマの中でも、
 特に記録的な人気を博
 しているようです。ふと
 した時に海禅寺境内地
 に立ち、一人静かに目を閉じると、歴史上
 において確かに実在した真田一族が、この
 海禅寺に祈願所としての思いを託してき
 たという事実が、ぬくもりを持ったロマン
 としてふつつと感じられます。

今後とも歴史ある海禅寺を護持しながら、
 皆さまの菩提寺として、各家ご先祖の菩提
 を日々供養し、それぞれのご家庭が無事幸
 いであることを、ご祈念してまいります。
 またこの寺が、現代を生きる皆さまにと
 つて、意義ある存在として在ることができ
 るよう、様々な取り組みを重ねてまいりま
 す。ご理解とご協力の程、よろしくお願
 いたします。

生きる力 vol.87 送付

今回の特集は『お大師さまとともに、仲
 間とともに』巡礼の旅、四国遍路』です。
 今回、海禅寺新聞の裏面でもご紹介しま
 が、先日2年間に渡って、区切りながら四
 国遍路を全て巡拝し終えた海禅寺として
 は、タイムリーな話題が特集されています。
 他にも年末年始の忙しい一時の心の安
 らぎ、または仏教の理解が深まる読みやす
 い記事が多数掲載されています。ぜひお読
 みください。

初祈願お申込みを送付

新春恒例となっております初祈願大護
 摩祈禱札のお申込みを同封いたしました。
 海禅寺の不動堂にて、ご本尊不動明王の
 御前で勤めるお護摩にてご祈禱し、お加持
 をした護摩札をお授けいたします。当山の
 不動堂ご本尊である不動明王は、真田昌幸
 公、信繁公、信之公も祈願をこらしてきた
 由緒ある霊尊であります。新年の2日は、
 読経と太鼓、そして法螺貝の法音の響きの
 中勤められる初祈願に、ぜひお誘いあわせ
 て、ご参拝ください。皆さんで新しい年が
 よりよい1年であることをお祈りいたし
 ましょう。



日程：平成29年1月2日（月）
 時間：ご祈禱 午前10時〜
 ※終了後は粗酒粗肴をご用意いたします。
 お車でご参拝の方はご配慮ください。
 ※初祈願ご祈禱札をご希望の方は、12月
 29日（木）までに、同封の『初祈願御
 申込御芳名帳』にてお申込みください。
 ファックスでも可 Fax：0268-26-1147



修正会

新年最初の法要を、修正会と言います。
 過ぎ去った年の過ちを反省し、新年の初め
 に正しい行いをご本尊様にお誓いする法
 要です。海禅寺でも年が明けた0時より、
 本堂・不動堂・聖天堂でお勤めをいたしま
 す。どうぞご参拝ください。（申込不要）
 日 時：平成29年1月1日 午前0時〜

※本堂で任職が回向法要を、不動堂と聖天
 堂では副任職が祈願法要をお勤めします。

報告 バトマ・サンガ企画

『長く歩くハン』を知るハン』

〜ロングトレイルとお遍路〜

10月29日（土）に開催されたこの企画。
 長野県出身でアメリカ三大長距離トレイ
 ルを歩き通した方、日本人ではたった4人

しかいないという凄まじいことをなした
 げた、坪井夏希さんのお話を聞く会でした。
 当日は、何とインターネットでこの講座を
 知った埼玉県在住の方の参加もあり、注
 目の高さが伺えました。

※アメリカ三大長距離トレイルとは、アパラチア
 ン・トレイル約3,500km+パシフィック・クレ
 スト・トレイル約4,200km+コンチネンタル・
 デイバイド・トレイル約4,500kmを指します。
 ちなみに日本の四国八十八カ所は約1,200km
 いたずらに比較する世界ではないとわかって
 いても、その長さに圧倒されます。

坪井さんの、自分の二本の足で、とんで
 もない距離を歩き通した話というのは、と
 ても深い世界が広がっていました。（工夫
 を重ねて使い続けてきた、様々な道具類の
 知恵も素晴らしいものでした。）と同時に、
 長い距離を歩く中で培った坪井さんの活
 きる哲学とも言えるべき、出来事に対する瞬
 間瞬間の覚悟には深い感銘を憶えました。
 そしてそうありながらもとても穏やかで円
 やかな人柄にも。

秋深まる季節の一時に、本当によい時間
 を参加者の皆さんと過ごせました。

「会場となった寺の会議室には坪井さん（写真上）の中央
 が実際に使用した道具類全てが並び、更に映像を交
 えて分かりやすくお話をいただきました。



告知 パドマサンガ企画

しめ飾り作る会



今年もしめ飾りを作る時節となりました。例年通り有志のお檀家さん方を中心に手作りする会を開催します。新しい年を迎えるにあたり、歳神様の依り代となる大切なしめ飾りです。最近ではホームセンターで、格安の物が簡単に手に入りますが、先人たちに習い、手作りしたものを飾ることで、各家に訪れる福德はより大きなものとなるでしょう。本年は12月15日(木)より毎日夕方から作り始めます。しめ納め日は25日(日)頃を予定しています。(時間はおおよそ午後7時〜9時くらいまで)。今年1年を振り返りながら新しい年の吉祥を願い、そしてよもやま話に花を咲かせながらの手仕事は大変に楽しいものです。詳しくは海禅寺にお問い合わせの上、ぜひお気軽にご参加ください。

TEL: 0268-2212972

※会費: 300円(1回分の参加費)

※ご自宅用もお作りいただけます。

※場所: 上野設備さんの一室をお借りします

(海禅寺より徒歩3分)

※お車でお越しの方は寺の駐車場にお停めください。なお御神酒をお振舞いしますので、お召し上がりの場合は、車のご利用を一切ご遠慮ください。

※参加者の都合でお休みの日もございますので、事前に必ずご連絡ください。



告知 NPO法人 新田の風 企画

生と死を考える集い

「安心して老いを迎えられる町作り」を活動理念として、様々な取り組みを展開するNPO法人『新田の風』(副住職が理事を務める)では、年明けに独自のエンディングノートが完成する運びとなりました。これに合わせ、エンディングノートの普及啓蒙活動の一環として、海禅寺を会場に「生と死を考える集い」が開催されることになりました。

死は誰にでもいつか必ず訪れる自然なものです。それを元氣な今からきちんと見据え、我が事として向き合っていくことは、今ある生の質が深まることに繋がっていくと考えています。

今回は上田市内で活躍する朗読の会の皆さんをお招きしての集いです。ぜひお気軽にご参加ください。

【内容】

《第一部》

「生死をテーマにした朗読」

担当 イマージュの会

(女性を中心とした朗読の会)

《第二部》

「エンディングノートの紹介」

担当 ・井益雄 先生

(内科クリニック院長
NPO法人「新田の風」理事長)

・海禅寺 副住職

日程: 平成28年2月27日(土)

時間: 午後1時半〜3時半

(1時15分開場)

無料: (定員40名)



会場: 海禅寺 会議室

申込み: 申込み先は本誌末尾を参照
※必ず事前申し込みをお願ひします。

締切: 2月18日(土)

主催/NPO法人「新田の風」協力/海禅寺

四国八十八ヶ所お遍路の旅 結願!!

この新聞で告知とご報告を重ねてまいりました海禅寺主催の四国八十八ヶ所の巡礼を巡拝するお遍路の旅が、今年の秋に結願を迎えました。昨年の秋に第1回目の巡礼を開催。そして今年の春に第2回目を巡拝し、今回10月の第3回目をもって四国一周88ヶ寺ある弘法大師ゆかりの寺院を、全て打ち終えました。

ご参加いただいた皆さんは、それぞれ様々な思いを持つての巡礼の旅路でした。最後はお礼参りにと、宗祖弘法大師がおられる高野山、そして私たち真言宗智山派の祖、興教大師が開いた根来寺も訪れ、充実の時間を過ごすことができました。

日常を離れた巡礼は、祈りの時間と共に色々な気付きを与えてくれます。しかし四

国は信州からは遠く、なかなかご参加叶わなかった方もおられるかと思ひます。そこでまた時期を見て、もう少し近場の霊場巡りも企画いたしますので、その折にはどうぞご参加下さい。

総本山にて冬報恩講が勤修

冬報恩講とは真言宗の宗祖・弘法大師の教えを復興した興教大師の功績に感謝し、根来伝来の教えを今に生きたる私たち真言僧侶が確かに受け継ぐことで、その恩に報いることを目的に行われる法要です。

この法要は興教大師が入滅された12月12日を期して3日間に渡り勤修されます。中心となるのは「出仕論議」と呼ばれる法要です。これは毎年10月に、化主親下より真言宗で大切にされるお経の一つ、『大日経疏』をもとに論議が話題されます。その内容について論議する法要が「出仕論議」です。その他の詳細については、総本山智積院のホームページをご覧ください。



ところで昨年より海禅寺住職が拝命している「菩提院結衆」とは、元来この法要に出仕することを目的に任命される総本山智積院の要職です。そうしたことから、今年もお役目として、出仕をして参りました。昨今、仏教の教えを現代に活かす取り組みが各方面で試みられています。報恩講のように伝統の型を脈々と今に伝える力のようなものがあると感じました。

発行元 海禅寺